

住んでよかったという田中野田でありたい

(2組) 中尾 佐之吉

1) 大正時代の実直な日本人の事例

明治三十八年(1905)岩手県の釜石の没落商家にうまれた。土地の高等小学校を出て、岩手銀行釜石支店に少年社員(書記補)として入った。大正九年(1920)のことである。

そのころ、その銀行では十万円貯まると、十円札にして遠野の銀行に運んだそうである。

運搬は、十五の少年ひとりの仕事だった。唐草模様の一反ぶろしきに札束の包んだものを背負ってゆく。山を越え、はるかに遠野の支店まで徒歩で運んでゆくのである。途中、仙人峠という難所を越えてゆくのだが、出あうひとびとはみな親切で、茶をふるまってくれたり、声をかけてくれたりした。自分たちの汗水流して貯めたお金をこの少年が運んでくれるのである。「泥棒? そんなものは出やしませんよ。そのころはどんな家でも、戸締りなどせず寝ていた時代ですから。」

上記は、司馬遼太郎著「風塵抄二」の中で実直な日本人の事例として書かれていた文章の一部である。(備考: 上掲の記事の中の釜石と遠野は共に岩手県内の市で、その間の距離は地図で見ると50kmくらいで、岡山県と言えば岡山市と笠岡市との区間に思える。また、当時の10円は今の1万円くらいと考えていい。)

上記の大正時代は私の生れた頃のことであって、現在の世相と比べその大きな変わりように、いまさら驚くのである。

2) 先進国での凶悪犯罪の発生状況

この頃新聞やテレビで伝えられる記事やニュースに、凶悪犯罪事件のなんと多いことであろう。銀行などの金融機関をおそってお金を奪う記事も絶えないのである。

国名 (年次)	殺人 (1996~'98)	強盗 (1988)
アメリカ	7.4 #	220.9 #
西ドイツ	4.3	47.3
フランス	4.1	90.4
イギリス	2.6	62.6
日本	1.0	1.2

数値はいずれも人口10万人当りの件数。

当時(大正時代)に比べ日本の人口は2.5倍くらいに増加した。しかし一人あたりの国民所得も、大雑把に言って実質的に7倍から8倍になっているのである。

そこで心配になったので、わが国と先進国との凶悪犯罪の発生状況を見ると、表のとおりである。これらは最近の「犯罪白書」などによったが、「強盗」についての各国の数字は、最近のものが分らないので古い統計によった。また、「強盗」については、日本の平成13年の人口10万人あたりの認知件数は、およそ5.0と上昇しているようだ。

3) 住んでよかったという「田中野田」でありたい

私が生れた頃からみれば、上下水道はもとより冷暖房も完備し恵まれた生活環境であり、そのうえテレビやIT機器などの充実した、私らの親たちの夢想だにしなかった、快適な生活を享受していることをありがたく思うのである。

田中野田は大正時代には30数戸に過ぎなかったが、現在は600戸の大世帯になっている。そして昔は考えられなかった、いろいろなスポーツや夏まつりのような催物が盛大にでき、大世帯であつてもというより大世帯になったればこそ、より多くの方々と交流が深まり、喜びや楽しみがますます増大しているのである。

「田中野田に住んでいてよかったという町内であってほしい」というのが、高齢者の一人である私の切なる願いでもあります。

情報部の新設(試行)について

冒頭の会長のあいさつにもありましたように、新年度より町内会では、5つの専門部(庶務部・広報渉外部・防犯防災部・保健衛生部・厚生文化部)のうち、広報渉外部での新聞等本来の業務のほか、情報の仕事を加え試行したらと思っております。

ご承知のように、昨年3月田中野田町内会は岡山市より「モデル電子町内会」の指定を受け、この1年間研究段階ではありますが、一定の成果をあげ今日に至っております。これは情報化社会への先進的な取り組みであり、指定が解ければ終るものではありません。情報が私どもの生活のなかで生きて働き、これからも住みよい生きがいのある生活に役立つことと思います。

今はまだ緒についたばかりで、一部の人の利用に留まっていますが、テレビの普及のように一般化され、活用される日も近いと思います。

ご理解の上、ご協力の程よろしくお願い致します。

(広報渉外部)